

ゆかたびら た おわ
明衣一つ給ひ畢んぬ。

女人の御身、男にもをくれ、親類をもはなれ、一二人あるむすめもはかばかしからず、便りなき上、法門の故に人にもあだまれさせ給ふ女人、さながら不^ふ輕^{きょう}菩薩^{ぼさつ}の如し。仏の御^お姨^ば母^ま摩^は訶^か波^は闍^だ提^て比^ひ丘^く尼^には女人ぞかし。而るに阿羅漢とならせ給ひて声聞の御名を得させ給ひ、永不成仏の道に入らせ給ひしかば、女人の姿をかへ、きさきの位を捨て、仏の御^おす^すゝめを敬ひ、四十余年が程五百戒を持ちて、昼は道路にたゝずみ、夜は樹下に坐して後生をねがひしに、成仏の道を許されずして永不成仏のうきなを流させ給ひし。くちをしかりし事ぞかし。女人なれば過去遠々劫の間、有るに付けても、無きに付けても、あだ^あな^なを立^たてしは、はづかしく口惜しかりしぞかし。其の身^みをいとひて形をやつし尼と成りて候へば、かゝるなげきは離れぬとこそ思ひしに、相違して二乗となり永不成仏と聞きしは、いかばかりあさましくをわせしに、法華經にして三世の諸^{しよ}仏^{ぶつ}の御^お勘^{かん}氣^きを許され、一切衆生喜見仏と成らせ給ひしは、いくら程かうれしく悦ばしくをはしけん。さるにては法華經の御為と申すには、何なる事有りとも背かせ給ふまじきぞかし。其れに仏の言はく「大音^{だいおん}聲^{じやう}を以て、普^{あまね}く四衆に告げたまわく、誰か能く此の娑婆国土に於て、広く妙法華經を説かん」等云云。我も我もと思ふに、諸仏の恩を報ぜんと思はん尼御前・女人^{たち}達、何事をも忍びて我が滅後に、此の娑婆世界にして、法華經を弘むべしと三箇度までいさめさせ給ひしに、御用ひなくして他方の国土に於て広く此の經を宣べんと申させ給ひしは能く能く不得^{ふとく}心の尼ぞかし。幾^{いく}か仏^{ぶつ}悪^{あく}しとをぼしけん。されば仏は^側向^{むか}きて、八十^{まん}万^の億^な那^ゆ由^た他の諸菩薩をこそつくづくと御覽ぜしか。

されば女人は由なき道には名を折り命を捨つれども、成仏の道はよはかりけるやとをぼへ候に、今末代悪世の女人と生まれさせ給ひて、かゝるものをぼえぬ島のえびすに、^言のられ、打たれ、責めをしるび、法華經を弘めさせ給ふ。彼の比丘尼には雲泥勝れてありと仏は靈山にて御覽あるらん。彼の比丘尼の御名を一切衆生喜見仏と申すは別の事にあらず、今の妙法尼御前の名にて候べし。王となる人は過去にても現在にても十善を持つ人の名なり。名はかはれども師子の座は一なり。此の名もかはるべからず。彼の仏の御言をさか^逆へ^反す尼だにも一切衆生喜見仏となづけらる。是は仏の言をたがへず、此の娑婆世界にて名を失ひ命をすつる尼なり。彼は養母として捨て給はず。是は他人として捨てさせ給は^{へん}ば^ば偏^{へん}頗^ぽの仏なり。争でかざる事は候べき。況んや其中衆生悉是吾子の經文の如くならば今の尼は女子なり、彼の尼は養母なり。養母を捨てずして女子を捨てる仏の御意やあるべき。此の道理を深く御存知あるべし。しげければとゞめ候ひ畢んぬ。

日 蓮 花 押

妙 法 尼 御 前